

議 事 録

－令和6年度第1回浜松市森林・未来構想会議－

日時：令和6年6月20日（木）午後2時00分～4時30分

場所：浜松市役所8階第3委員会室

内容：

1 開会

2 あいさつ

3 議題

(1) 令和6年度森林環境譲与税について【資料1-1、1-2、2】

※ 事務局から資料に基づき説明。

B氏) 市民目線からは森林環境譲与税の使途が分かりづらくなった。

C氏) 数字に違和感はあり。林業部局の要望が通っていないように見える。庁内における林業振興課の立場が危惧される。

E氏) 森林環境譲与税の一般財源化が進んだと思われる。

F氏) 国が目的を曖昧にしたまま徴収を始めた森林環境税。これを各自治体に有意義に「使用せよ」として配分する制度の欠陥及び皺寄せが顕著になったと史料。

(2) 提言書について【資料3～7】

【人口減少及び住宅着工棟数の減少等を踏まえ、今後の天竜林業の方向性は】

B氏) 林業の成長は、供給側よりも需要側に委ねられているのでは。単純に山側だけで決定することはできない。住宅着工数が減っても木材使用量が増えれば未来はある。

C氏) 現在、林業の過渡期。天竜材の家百年住居の事業は外材との価格差を埋める趣旨で始まったが、今では天竜材と他地域国産材との価格差も広がっている。天竜の山々が目指す方向性は規模なのか、量なのか、価格なのか。地元で木材需要の囲い込み運動をすることはできる。

B氏) ヨーロッパのように需要側を拡大することが重要。山側だけが投資することは妥当ではない。

D氏) 天竜の山に目を向けている建築業目線もある。補助金の申請書類作成に労力が必要だが工務店側へのインセンティブがないため、天竜材の選択に至らない。

A氏) 需要があるから供給するのが山側の使命だと思っている。

F氏) 需要と供給は曲げモーメントの概念に近い。需要が先、供給が先という話ではなく、「天竜材を使う文化」を醸成することが大切。最低限度の文化的な生活が憲法上でも保障されているが、主眼を置かない市民が多い印象。文化ありきで経済が回っていくことを踏まえれば「森林文化の創造都市」を実現するために森林環境譲与税を使用する方針等が必要。提言書を通して、森林環境譲与税の充当率が100%となるような事業を市長に納得してもらえれば。

C氏) 高いところ目指してこその本会議。人材不足は顕著。需要が増えても人件費が潤沢にあるわけではない。天竜材を使ってくれる人を増やすための工夫をしたり、人を育てたり

することにもコストはかかる。

E氏) 成長云々の観点はやめてみよう。供給過多という現状に見える。工務店の中でも天竜材を積極的に使用したいと考えているところは稀有。市民が接する機会を創出することが大事なのではないかと。

【提言書の内容について】

B氏) クレジットの創出(お金儲け)のために森林環境譲与税を投下することは疑問。天竜材の家百年住居る事業に代わるものというよりは、全く新しいものを設立する方が説明の仕方は簡単なのではないか。

D氏) 市民も森林環境譲与税のことを認知し始めている。市民が税の用途についても興味関心を示している。弊社は、新築する施主を山に連れていく。山を見る機会があることで施主自身も啓蒙されているように思われる。ウッドマイレージ CO2 という制度がある。木材の運搬距離(山→製材→加工現場→住宅施工地)を考えて見ると、天竜地域は日本でもかなり最短。

E氏) 地産地消の看板に拘らなくても大丈夫ではないか。地産地消で木材需給バランスを保つことも十分ではないか。

C氏) 地産地消を充足するために、西部地域の市町村との横串連携を行うことも必要。クレジット購入と木質化の抱き合わせなどを行う。他産地と比較するだけが勝負ではない。

B氏) 機動的かつ柔軟に対応できる予算があればよい。公共事業を FSC 認証材に縛り磐田市・袋井市にまで広めることができれば、天竜林業の未来は明るくなる。

C氏) 自動車産業が浜松の顔。自動車産業(異業種)とのタイアップがあれば。人を育てる仕組みはマスト。今後、4号特例が縮小されるがこれを正しく解釈できるレベルの設計、現場監督等の育成が必須。

F氏) 森林文化創造都市(消費者・生産者に関係なく森を造っていくことを目指す)の件で、森林環境教育の推進は重要だが、行政だけでは進まない。森林・林業関係の NPO 法人の立ち上げ、行政の在り方を俯瞰的に評価し、庁内関係課を横断して森林環境譲与税を活用した事業を実施していくことが必要。

B氏) 天竜美林に来る人を増やし、ファンを獲得する事業が必要。

C氏) 出口がなければ生産できない。他府県との競争している場合ではない。林業に就きたいと思える仕事にすること。やりがいも大事だが福祉・育児・賃金の拡充。明日食べる飯を憂いている産業に入る若者は来ない。

D氏) 幼い頃から森林に触れる機会の創出が必要。野菜や花卉と同様、生産者の顔が分かる木材を生産・消費する文化の醸成ができればよい。

E氏) 天竜材のファンを作る。佐鳴台保育園は木造の公共物件だが認知しているのは行政職員や林業関係者、佐鳴台地域の住民だけ。ダイナミックな情報発信・普及啓発があってもいいのでは。地産地消の拡充が一層の天竜材の需要拡大・市民のプライドに寄与していくと考えている。

F氏) 森林文化の醸成。「天竜・交流」洒落を利かせて。

4 報告、連絡事項

5 閉会